熊日1961.05.20

多発する"脳性小児マヒ"

水俣

水俣病と関連か

症状などそっくり　熊大で原因究明

水俣市で脳性小児マヒが集団発生し、水俣病に似た症状が多く出ているところから水俣病と関係があるのではないかとみて熊本大学医学部で研究をすすめている。水俣病はさる二十八年ごろから水俣市一帯で発生し、これまで八十七人の患者のうち三十四人が死亡、その原因は水俣湾でとれる魚貝類をたべるために起こる中枢神経系の中毒であり、原因物質としては有機水銀が考えられている。助かっても廃人同様となる恐ろしい奇病で、手足や口がしびれるところなど小児マヒの症状とよく似ている。

ところで水俣病が発生した水俣市の湯堂、月ノ浦、茂道など七つの部落で、さる三十年から三十三年まで生まれた乳児のうち、十八人までが生まれたときから手足の自由が利かない脳性小児マヒにかかっていた。同医学部小児科学教室で調べたところ、四一五%という他の地区ではみられない高い発生率を示し、水俣病患者とよく似た知能、運動障害がでている。

脳性小児マヒはピールスによって起こる急性灰白髄炎（ポリオ）といわれる普通の小児マヒと違って大部分が生まれたときから手足がマヒし、知能の発達がおくれる先天的な病気だが、その原因は学界でもナゾとされている。

同医学部では水俣市にかぎってこのように脳性小児マヒ患者が多く出ているのは、水俣病の原因となる有機水銀が母親の体内で母乳、さい（臍）帯血液などを通して生まれてくる赤ん坊に悪い影響をあたえていることも考えられるとして研究をはじめたもの。

これまでの研究では乳児と母親の毛髪などについて調べ、妊娠中のネコに水俣湾の魚をたべさせて有機水銀をあたえたところ、生まれた子ネコ十例のうち一例は脳性小児マヒに似た症状を起こしたことがわかっているだけで先天的な水俣病というのがあるのかどうか、またはっきりした関係はつかんでいない。

病理学教室の武内教授は三月末まで脳性小児マヒで死んだ水俣市の乳児の解剖を終わり、近く成果を発表するがまだ決め手となるものはないといっており、また小児科学教室の原田義孝助教授も「水俣病が原因で脳性小児マヒをおこすことになれば社会的に与える影響が大きいので慎重に結論を出したい」といっている。